

広島市町内会・自治会等実態調査報告書

調査5 地域団体を対象としたヒアリング調査

令和3年5月

ヒアリング調査の結果

【調査対象・期間】

(1) 調査対象

地区社会福祉協議会、連合町内会・自治会、町内会・自治会の会長の中から、「長年地域で活動されている方」「先進的又は特徴的な地域コミュニティの運営を行われている方」などの条件を満たす方

(2) 標本数

17 団体

(3) 調査期間

令和3年1月15日(金)～3月29日(月)

【調査結果】

ヒアリング項目	概要
1.活動に関すること	<p>○祭り・イベント等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏（盆）祭り、秋祭り、亥の子祭り、福祉センター祭り、とんど、餅つき、区民祭、文化発表会、写真展、敬老会、立志の集い <p>○スポーツ大会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グラウンドゴルフ、ペタンク、ソフトバレー、山登り、体育祭 <p>○防犯・防災活動、清掃活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練、子ども見守り 110 番、わんわんパトロール ・定期清掃 <p>○サロン等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・百歳体操、健康麻雀、社会福祉講演会、囲碁クラブ、高齢者見守り活動、ラジオ体操、パソコン教室、放課後自習室
(2)他団体との連携	<p>○各種活動への準備・参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども会、老人会、体育協会、小学校PTA、青少協、地域内企業 <p>○協賛金・寄付金</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域内企業
(3)課題解決の方法	<p>○地域団体活動への理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各町内会長や地域住民と、日頃からコミュニケーションをとる。 ・町内会会長の任期を2～3年とし、地域団体活動への理解を深める。 ・不審者情報等のチラシ全戸配布による地域活動のPR。 <p>○地域団体活動の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学区の地域特性に沿った活動内容を検討。 ・若い世代の意見の取り入れ、行事への参加呼びかけ。 ・包括支援センターと合同で、高齢者の孤立防止のための訪問活動の実施。 ・高齢化による担い手不足のため、イベント中心から日常の見守り活動等中心の活動に切り替えた。 <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・営農組合の補助金を活用した農地整備による獣害対策 ・事務局に事務員を常駐させることで人が集まりやすくなり活性化した。 ・地域ごとに歴史、経緯があるので、他地区のやり方を当てはめてうまくいかない。

ヒアリング項目		概要
	(4) 新型コロナウイルス感染症への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域団体活動の中止または延期 ・ 夏祭りの縮小開催（出店無） ・ 認知症カフェの「集会型」から「開放型」への移行を検討。 ・ 役員会の開催時間の短縮 ・ 地域内へマスクの全戸配布
2. 運営に関すること	(1) 地域団体の組織体制	<p>○役員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各町内会の会長が、地域団体の役員を兼務。 ・ 法人へ管理・運営を委託。 ・ 各地域団体から常任理事を選出し、テーマごとにネットワークを形成する組織体制をとっている。 <p>【ご意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 縦割り組織を廃止すべき。 ・ 社協は、地域組織を網羅するため上位にいた方が良い。
	(2) 団体運営	<p>○町内会加入について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ マンション建設前に、あらかじめ建設業者と協議。 ・ 町内会活動に防災・防犯活動が含まれていることを説明。 ・ 多くの行事を実施し参加率をあげ、町内会の理解を促進。 <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ イベントの際は、各団体（体協・PTA・消防団等）で業務を分担。 ・ 事務員が福祉センターに常駐することにより、地域住民とコミュニケーションを図る。 <p>【ご意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の全住民に関係する「防災」をキーワードとした組織に移行し、その組織内に現状の町内会機能を持たせるとよい。
	(3) 業務量軽減	<ul style="list-style-type: none"> ・ 行事ごとに実行委員会を作り、業務分担した。 ・ 役員会等の資料作成を事務員に依頼。
3. 人材に関すること	(1) 人材育成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小中学校PTA役員が組織内に入ることにより、その後別の団体に入るという交流ができています。 ・ 若い人材に簡易な作業を依頼し、町内会へ関心を持ってもらう。 ・ 町内会長を1年交代とし経験者を増やすことによる、町内会活動への理解者を増やす。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ イベント実施のための企画力、資料作成等に必要なパソコンスキルを持つ人材の育成。

ヒアリング項目		概要
	(2)人材確保	<ul style="list-style-type: none"> ・行事の際、町内会ブースを回り、活動参加を呼び掛けている。 ・子どもが関心を持つイベントを実施し、若い親世代に参加してもらおう。 ・若い人に簡単な仕事をしてもらい、関心を持ってもらう。 ・日頃から地域住民とのコミュニケーションを図り、適任者へ声掛けする。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現役世代は、時間的な制限があり確保が困難。 ・市職員が積極的に関わるような市の制度設計が必要である。 ・市職員OBが役員になる人が少ない。
4.活動拠点・資金に関する こと	(1)活動拠点	<ul style="list-style-type: none"> ・集会所または福祉センターの一室に事務局を設置。 ・役員会やサロン開催時に、集会所・公民館会議室を利用。 <p>【ご意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務作業は自宅で実施するため、拠点の必要性はない。
	(2)活動資金	<ul style="list-style-type: none"> ・町内会からの年会費 ・行政からの補助金 ・地域企業の協力金 ・集会所会議室等の利用料収入 ・資金に見合った活動を実施。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域団体によっては、資金不足あり。
5.情報伝達・広報について		<p>○回覧板について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・回覧内容が容易に把握できるよう、1枚目にレジューメを作成。 ・回覧回数を月1回とし、作業にかかる負担を軽減。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政や警察、消防の回覧物が多く、不定期に届く。 <p>○OHPやSNSの活用について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紙ベースでの回覧がタイムリーで早い。 ・HPを更新できる人材がいるため活用している。 ・役員間でのSNSの活用。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PC操作スキル不足、IT知識不足

ヒアリング項目	概要
6.その他	<p>○高齢者関係</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道が狭く坂の上にある高齢者世帯のゴミ出し問題 <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旧住民と新住民間で軋轢が生まれている。
行政への要望等	<p>○市の支援体制</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市組織（まちづくり・福祉・生涯学習団体）内で横の連携が取れていれば、一本化は不要。 ・包括支援センターのエリアが、小学校区になれば地域の繋がりは強くなる。 ・新たな組織を作っても、結局、その担い手は地域団体や町内会役員と同じ人になる。 ・企画力不足を補うため、区職員が社協等に訪問された際に、指導してほしい。 <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・補助金申請書の様式が、毎年のように変わり煩雑。 ・行政主催の会議が多く、時間的な負担が重い。 ・「永年勤続表彰制度」は、地域ボスを発生させ、人材が育たない。

